

要素訓練結果報告の概要

1. 訓練の目的

本訓練は、予め定められた原子力災害時における応急対策または復旧対策等に関する手順の検証，習熟を行うとともに，体制，資機材の取扱いおよびその実効性について改善を図るものである。

2. 実施日および対象施設

(1) 実施日

平成24年9月20日（木）～平成25年3月21日（木）

（訓練ごとの実施日については，「添付資料」のとおり）

(2) 対象施設

女川原子力発電所

3. 実施体制，評価体制および参加人数

(1) 実施体制

訓練ごとに実施責任者を設け，実施担当者が訓練を行う。

詳細は，「添付資料」のとおり。

(2) 評価体制

定められた手順どおりに訓練が実施されたかを実施責任者が評価する。

(3) 参加人数

「添付資料」のとおり。

4. 原子力災害想定の概要

(1) モニタリング訓練

停電に伴う構内モニタリングポストの停止または故障を想定

(2) 電源機能等喪失時対応訓練

全交流電源喪失，原子炉除熱機能喪失および使用済燃料プール除熱機能喪失の状態を想定

5. 防災訓練の項目

要素訓練

6. 防災訓練の内容

- (1) モニタリング訓練
- (2) 電源機能等喪失時対応訓練

7. 訓練結果の概要（添付資料参照）

(1) モニタリング訓練

- ① 可搬型モニタリングポストを用いた空気吸収線量率の測定訓練を実施。

(2) 電源機能等喪失時対応訓練

- ① 全交流電源喪失，原子炉除熱機能喪失および使用済燃料プール除熱機能喪失を踏まえた緊急安全対策の各対策について個別に緊急時対策要員による実動訓練を実施。
- ② 訓練にあたり，本設機器へ直接影響が生じる手順は模擬とし，現場での動作確認または机上での手順確認を実施。

8. 訓練の評価

各要素訓練について定められた手順どおりに訓練が実施されていることを確認できた。

訓練毎の評価結果は，「添付資料」のとおり。

9. 今後に向けた改善点

各要素訓練における当該期間中の改善点および今後に向けた改善点は，「添付資料」のとおり。

以 上

〈添付資料〉要素訓練の概要

要素訓練の概要

1. モニタリング訓練（訓練実施日：平成25年3月21日，参加人数：8名）

概要	実施体制 (①実施責任者，②実施担当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後に向けた改善点
放射線管理測定訓練 可搬型モニタリングポストを用いた空気吸収線量率の測定訓練を実施	① 環境・化学課長 ② 環境・化学G員	良	—	—

2. 電源機能等喪失時対応訓練（訓練実施日：適宜反復訓練を実施（当該期間内で計39回実施），参加人数：延べ464名）

概要	実施体制 (①実施責任者，②実施担当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後に向けた改善点
緊急時の電源確保に係る訓練 電源車および大容量電源装置等による電源確保の手順の実動訓練や机上訓練等を実施	① 電気課長，原子炉課長または発電管理課長 ② 電気G員，原子炉G員，発電管理G員または協力会社社員	良	—	—
緊急時の最終的な除熱機能の確保に係る訓練 消防車による原子炉への代替注水等の実動訓練やライン構成等の一連の動作確認を現場にて実施	① 電気課長，原子炉課長，タービン課長または発電管理課長 ② 電気G員，原子炉G員，タービンG員，発電管理G員または協力会社社員	良	原子炉格納容器耐圧強化ベント弁の現場操作手順において，建屋内の照明が全消灯した場合を想定した資機材（ヘッドライト）を追加	—
緊急時の使用済燃料プールの冷却確保に係る訓練 消防車による使用済燃料プールへの注水等の実動訓練を実施	① タービン課長または原子燃料課長 ② タービンG員または原子燃料G員，輸送・固体廃棄物管理G員または協力会社社員	良	—	—
シビアアクシデント対策に係る訓練 原子炉建屋のベント開放操作に係る動作確認やホイールローダによる模擬がれき等を用いた実動訓練を実施	① 土木建築課長 ② 土木建築G員または協力会社社員	良	電源車等を出動させるために必要となるアクセス道路を確保するための手順およびがれき撤去ルートを追加	—